

1. グループヘッダレコード

[チェック 2]-[グループヘッダレコード]に、要素レコードの「階層レベル」のチェックを追加しました。

要素レコードの階層レベル

要素レコードの「階層レベル」について、グループヘッダレコードの「階層レベル」の値+1になっていないケースをリストアップします。

表示項目と項目数	OK
<input checked="" type="radio"/> すべて 12	
<input type="radio"/> OK以外 12	
<input type="radio"/> OKのみ 0	

(1)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(km) 点
(2)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(km) 属性
(3)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(km) 注記
(4)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(m) 点
(5)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(m) 属性
(6)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(m) 注記
(7)sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」がグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+1になっていません	2256	距離標(m) 点

また、要素レコードの「階層レベル」を、グループヘッダレコードの階層レベル+1に変更します。

(1) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2255	距離標(km)	点
(2) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2255	距離標(km)	属性
(3) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2255	距離標(km)	注記
(4) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	点
(5) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	属性
(6) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	注記
(7) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	点
(8) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	属性
(9) sample.dm	要素レコードの階層レベル=「3」をグループヘッダレコードの階層レベル=「1」+「2」に変更	2256	距離標(m)	注記

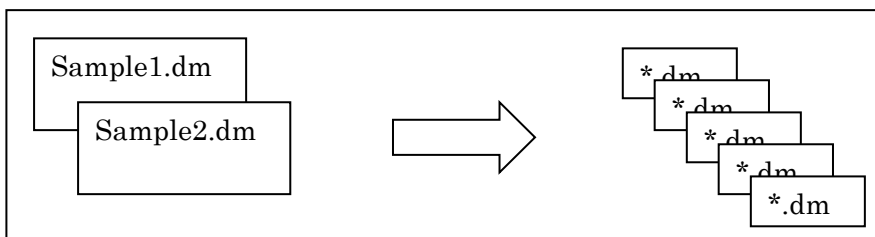
ガイド | レポート | チェックリスト1 | チェックリスト2 | 確認リスト | 断面

このチェックと変更は全ての要素について行います。

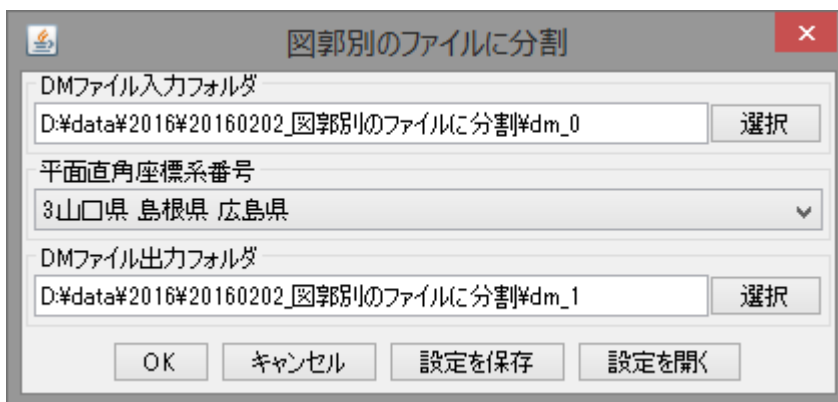
2. 図郭別のファイルに分割

新メニュー[DM から DM]-[図郭別のファイルに分割]を追加しました。

複数の図郭にまたがる要素が記録されている DM ファイルを、図郭別のファイルに分割します。



例えば、2次元の要素と3次元の要素について、それぞれを統合された2個のDMファイルの状態では編集されているとします。このメニューでは、これらのDMデータを最終的に図郭別に分割します。



DM ファイル入力フォルダ

変換元の DM ファイルのフォルダを指定します。DM のファイル名は任意ですが、拡張子が.dm のファイルを参照します。

平面直角座標系番号

作成する DM ファイルの平面直角座標系番号を指定します。作成する DM ファイル名や図郭レコードの図郭名に使用します。

DM ファイル出力フォルダ

図郭別に分割した DM ファイルを保存するフォルダを指定します。保存する DM ファイル名は

平面直角座標系番号 + 図郭名 + .dm

です。

以下の処理を行います。

- ① 入力 DM ファイルの図郭レコードに記録されている「地図情報レベル」を参照し、保存する DM の地図情報レベルと図郭の幅と高さを決めます。
- ② 入力 DM ファイルの要素の座標から、保存する DM ファイルの図郭を計算します。
- ③ 作成する DM ファイルの図郭レコードは、入力 DM の図郭レコードをコピーします。入力 DM が複数ある場合、最初に参照した DM の図郭レコードをコピーします。
- ④ コピーした図郭レコードについて、以下の項目については更新します。
 - 図郭レコード(a)の図郭識別番号
 - 図郭レコード(b)の左下図郭座標と右上図郭座標、要素数、レコード数
 - 図郭レコード(c)の隣接図郭識別番号
- ⑤ 入力 DM ファイルの要素を各図郭の DM データに分けます。面(E1)と線(E2)が複数の図郭にまたがっている場合、分割します。
- ⑥ 入力の DM ファイルが複数あり、範囲が重なっている場合、同じ図郭の DM ファイルに記録します。

```
図郭別のファイルに分割 開始...
入力フォルダ D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_0
平面直角座標系番号 = 3
出力フォルダ D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1
-----
リード D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_0\1contour-all.dm
1contour-all.dm 地図情報レベル = 1000
1contour-all.dm 要素の範囲 東西 = 20879.453 , 23331.886 幅 2452.433
1contour-all.dm 要素の範囲 南北 = 44491.143 , 46615.136 高 2123.993
-----
リード D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_0\1heimen-all.dm
1heimen-all.dm 地図情報レベル = 1000
1heimen-all.dm 要素の範囲 東西 = 20913.415 , 23458.493 幅 2545.078
1heimen-all.dm 要素の範囲 南北 = 44475.840 , 46545.237 高 2069.397
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE454E.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE453E.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE454D.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE453D.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE453C.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE452B.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE452C.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE550E.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE550B.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE550C.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE453B.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE454B.dm
保存 D:\data\2016\20160202_図郭別のファイルに分割\dm_1\03IE454C.dm
処理時間: 15秒588ミリ秒
図郭別のファイルに分割 終了
```

上図はふたつの DM ファイルをリードして、13 分割された DM ファイルを保存した例です。

面(E1)が複数の図郭に分割された場合、それぞれ面(E1)として記録しています。線(E2)への変更が必要な場合、作成した DM を開いて、メニュー「要素リストアップ」なので変更して下さい。

方向(E6)や注記(E7)は、代表点の座標値で出力先の図郭を決定します。

点(E5)等、代表点の座標値が図郭線上にある場合、両方の図郭に要素ができます。